

おぢやエネルギー通信

第2号



小千谷市は、再生可能エネルギーを有効利用して、地球温暖化の抑制や地域の振興につなげることを目指しています。今年度は、今後の取組の指針となる「小千谷市エネルギービジョン」を策定します。この通信では、現在の策定状況をお知らせします。

■「小千谷市エネルギービジョン(案)」へのご意見を募集します

有識者等による策定委員会の意見を踏まえ、「小千谷市エネルギービジョン(案)」がまとまりましたので、意見募集(パブリックコメント)を行います。皆様のご意見をお寄せください。

- 実施期間：令和2年1月25日(土)～2月21日(金)
- 閲覧場所：市内公共施設、市のホームページ
- 提出方法：住所、氏名、電話番号を明記のうえ、郵送、FAX、電子メール等により提出(様式自由)
- 提出先：小千谷市企画政策課企画経営係

■再生可能エネルギー等の利用促進プロジェクトの検討会を開催しました

令和元年12月24日(火)に「第3回小千谷市エネルギービジョン策定委員会」を開催しました。

これまでの検討結果から、小千谷市では、**太陽光**、**雪冷熱**、**地中熱**の利用が有望であることがわかり、策定委員会では、これらの再生可能エネルギーなどの利用を促進するプロジェクトについて協議が行われました(詳細は本紙裏面に記載)。



<策定委員会の様子>

■雪国対応型の太陽光発電導入事例のご紹介 <パネル傾斜角度を急こう配にした自然落雪システム>

太陽光

小千谷市桜町地内の事業所の立体駐車場の屋上に、雪国対応型の太陽光発電システム(出力172.8kW)が導入され、平成30年12月から稼働しています。

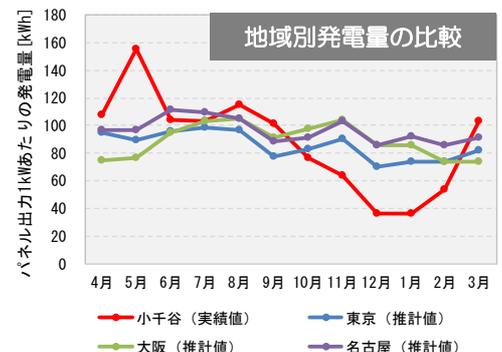
これまで雪国では、冬季の日照時間の減少や雪の重みによる太陽光発電設備への影響などが課題でした。

今回導入されたシステムは、太陽光パネルの設置角度を40度の急勾配とすることで、パネルに積もる雪を自然落下させ、パネルへの荷重を解消したことや、架台をかさ上げすることで落雪スペースを設けるなど、雪国ならではの工夫がされています。

月ごとの発電量の推移をみると、日照時間が短くなる冬季は、降雪が少ない地域より発電量が少なくなりますが、春先は、むしろ発電量が多くなる傾向がみられます。年間を通じて、降雪が少ない地域の8～9割程度の発電が期待できます。



<雪国対応太陽光発電システム>



再生可能エネルギーなどの利用促進プロジェクト（案）

小千谷市内の再生可能エネルギーの導入・拡大や天然ガスの地産地消を推進する取組として、以下の5つのプロジェクトを検討します。

<p><プロジェクト1> 人が多く利用する公共施設における再生可能エネルギー設備の導入</p>	<p>人が多く利用する公共施設や学校等への再生可能エネルギー設備の導入を進め、環境に優しく災害に強いまちを目指します。</p>	<p>【イメージ】</p>
<p><プロジェクト2> 地域産業における化石燃料から再生可能エネルギーへの利用転換</p>	<p>地域産業における自家消費型の再生可能エネルギーの導入を促進し、経営基盤の強化による地域経済の活性化を図ります。</p>	<p>【イメージ】</p>
<p><プロジェクト3> 雪冷熱を活用した地域産品のブランド化と都市間交流の推進</p>	<p>関係機関・団体と連携し、雪冷熱エネルギーを利用して商品の高付加価値化や快適な空間の創出を図り、市民・事業者の地域間交流を進めます。</p>	<p>【イメージ】</p>
<p><プロジェクト4> 都市ガスの利用拡大によるエネルギーの地産地消の推進</p>	<p>地域内の経済循環を向上させるために、事業所や家庭でのガス需要とガス供給を伸ばしていきます。</p>	<p>【イメージ】</p>
<p><プロジェクト5> 再生可能エネルギーに関する学習・教育機会の充実</p>		<p>市民や事業者が地域のエネルギー資源や再生可能エネルギーに関する知識と理解を深めることで、地球環境や地域資源に対する意識を醸成します。</p>

